

【報 告】平成 30 年度東北大学サイバーサイエンスセンター顕彰報告

平成 30 年度東北大学サイバーサイエンスセンター顕彰について

東北大学サイバーサイエンスセンターでは、本センターを利用し顕著な貢献があった方や、長年にわたり本センターの運営に貢献した方などに対する顕彰制度を設けており、平成 30 年度は、国立情報学研究所の安達淳教授、本学の河野裕彦教授、鈴木陽一教授の 3 名に功労賞を授与いたしました。

本センターは、全国共同利用の学内共同教育研究施設等かつ共同利用・共同研究拠点として研究、教育等に係る情報化を推進するための研究開発並びに情報基盤の整備及び運用を行い、本学の情報化推進において中核的な役割を担っています。今回の功労賞の 3 名の皆様には、これまで上記に関わる多くの場面でその卓越した見識を持って、大きな力を発揮いただきました。

安達教授は、平成 26 年度及び 29 年度に行われたサイバーサイエンスセンター外部評価委員会委員長として、本センターの運営・取組みに対し、適切な指導・助言をいただきました。また、本センター大規模科学計算システム全国共同利用連絡会議の構成員としても、長年にわたって本センターの発展のセンター運営に多大な貢献をされてきました。

河野教授は、平成 22 年度から継続的にサイバーサイエンスセンターと共同研究を実施し、三次元可視化システムなどを使って分子シミュレーション技術の高度化に取り組み、高度利用技術に関する研究開発において多くの成果を生み出しました。あわせて、そこで得られた知見はセンターの大規模科学システムのシステム設計にも活かされており、同システムの高度化にも多大な貢献をされてきました。

鈴木教授は、昭和 62 年から平成元年 6 月まで専任教官として、それ以降は兼任教官として本センターを支えてこられました。また、組織運営に関する重要事項を審議するための運営委員会構成員として、適切な助言・指導を行なうなど、長きにわたりセンターの管理・運営に多大な貢献をされてきました。

表彰式は、平成 31 年 1 月 30 日（水）本センター大規模科学計算システム全国共同利用連絡会議の中で行われ、曾根秀昭センター長から安達教授、河野教授、鈴木教授へ表彰状が手渡されました。

